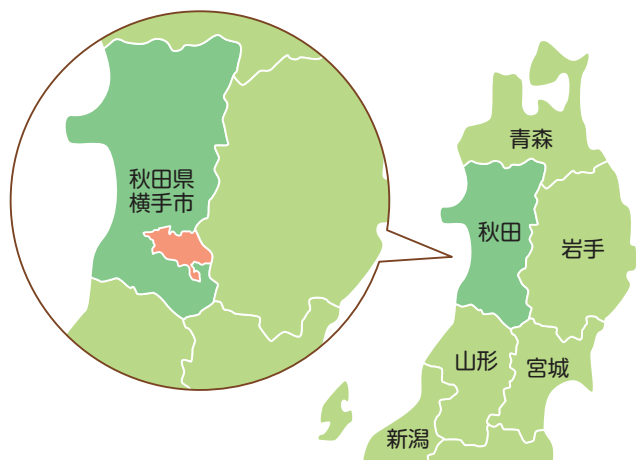


萌えみのりのふるさとを訪ねて

秋田県(JA秋田ふるさと)



11月下旬に本会職員が「萌えみのり」の産地である秋田県横手市を訪問しましたので紹介いたします。横手市は県内有数の豪雪地帯ですが、稲作だけではなく、東は奥羽山脈沿いにりんごを中心とする樹園地が連なり、西の出羽丘陵地帯では草資源に恵まれ畜産が振興されています。横手市内にあるJA秋田ふるすとは、県南部の内陸部に広がる横手盆地の中央部に位置しています。



産地の指定、契約栽培をし、精米業者と生産者が一体となり萌えみのりを生産しています。また、生産されたお米を全量買い取ることで、産地と堅固なパートナーシップを築き安全・安心なお米をお届けしています。

JA秋田ふるさと管轄内で生産されている萌えみのりの田んぼには、「e-kakashi」と呼ばれる農業用のセンサーを設置して栽培環境を数値化しています。数値化することにより、安全・安心で高品質なお米の生産方法の確立を目指しています。

萌えみのりは、今後の農業とお米の生産を持続可能にするSDGsの取組みを行っているお米です。この取組みを給食で食べている子ども達に対し、より理解していただくために出前授業を実施していますので、ご興味がありましたら本会までご連絡ください。



令和4年産のお米について

JA秋田ふるさとの職員の方に今年の収穫状況等をお伺いすると、「10月31日までの集荷状況は契約数量対比93.0%となっており、東北農政局発表による10月25日時点では、秋田県(県南)の作況指数は「97」のやや不良でした。穂数不足及び総粒数が平年より減少したことや登熟もやや不良となったことが要因ですが、いずれも6月上旬の低温による分けつ(※)不足、8月の多雨による日照不足、9月下旬以降の降雨による倒伏が助長されたことに起因するものです」とのことでした。

しかし、本会取扱いの萌えみのりについては、計画通りの集荷が出来ており、安定的に供給できますと説明いただきました。

(※) 種子から出た茎の根元から新しい茎が出てくること

萌えみのりの取組みについて

本会と取引している精米業者が、種子の調達・管理から生産、製品まで一括管理を行っています。種子は混在している異物の除去やDNA検査を経て産地に提供されます。

おわりに

産地ではDNA検査、残留農薬検査、重金属(カドミウム)検査を、本会では新米の供給前に放射性物質検査を実施しており、また、学校に納品されたお米をサンプリングし、残留農薬検査・DNA検査・重金属(カドミウム)検査・細菌検査を実施しています。今後も皆様が安心してお使いいただけるおいしいお米を供給してまいりますので、どうぞご利用ください。